

地震保険・住宅に関する統計データ(神奈川県)

地震保険地方(市、区等)別付帯率 2018年度

地方別	付帯率[%]	地方別	付帯率[%]	地方別	付帯率[%]
神奈川県	61.2	中原区	59.5	南足柄市	65.6
横浜市	61.8	高津区	57.9	綾瀬市	63.0
鶴見区	59.8	多摩区	56.2	郡部	64.1
神奈川区	59.4	宮前区	63.8		
中区	55.9	麻生区	60.5		
西区	59.0	相模原市	56.3		
南区	60.7	緑区	57.2		
保土ヶ谷区	65.3	中央区	56.7		
磯子区	64.7	南区	55.6		
金沢区	64.5	横須賀市	63.0		
港北区	58.6	平塚市	65.0		
戸塚区	65.6	鎌倉市	65.2		
港南区	64.4	藤沢市	61.6		
旭区	64.7	小田原市	67.0		
緑区	63.2	茅ヶ崎市	64.8		
瀬谷区	58.6	逗子市	66.4		
栄区	64.9	秦野市	61.3		
泉区	62.0	三浦市	61.1		
青葉区	62.2	厚木市	57.4		
都筑区	60.4	大和市	57.0		
川崎市	59.5	伊勢原市	56.1		
川崎区	56.8	海老名市	61.2		
幸区	64.0	座間市	58.8	全国計	65.2

(注)「付帯率」は、当該年度中に契約された火災保険契約(住宅物件)に地震保険契約が付帯されている割合をいいます。
 出典：損害保険料率算出機構

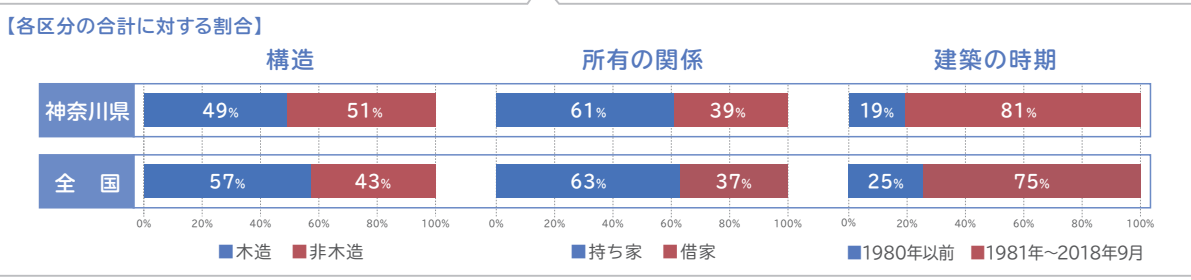
地震保険 都道府県別保有契約数推移

保有契約件数	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末	
	(件)	(件)	(件)	(件)	(件)	(対前年比)
神奈川県	1,418,179	1,450,566	1,497,454	1,529,605	1,570,431	102.7%
全国	16,489,482	16,941,425	17,712,801	18,257,927	19,005,841	104.1%

出典：損害保険料率算出機構

都道府県別住宅統計、住宅の耐震化率

地域名	2019年世帯数	総住宅数	構造		所有の関係		建築の時期	
			木造	非木造	持ち家	借家	1980年以前	1981年~2018年9月
神奈川県	4,328,814	4,503,500	1,957,700	2,042,300	2,362,000	1,486,200	706,500	2,929,800
全国	58,527,117	62,407,400	30,546,900	23,069,400	32,801,500	19,064,700	12,011,400	36,896,700



出典：2018年住宅・土地統計調査(総務省統計局)
 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(2019年1月1日現在)(総務省統計局)

住宅の耐震化率	
神奈川県	85%
全国	82%

※都道府県の耐震化率の年次は2008年または2008年度末(2008年住宅・土地統計調査をもとに国土交通省にて推計)。
 ※全国の耐震化率は2013年の推計値

出典：国土交通省HP

【建物の耐震性能について】
 建築基準法に基づく現行の耐震基準は、1981年6月1日に導入されました。阪神・淡路大震災では、1981年以前に建てられた建物に、大きな倒壊被害が発生しました。古い建物にお住まいの方は、建物が耐震基準を満たしていないケースがありますので、注意が必要です。「地震危険に関する消費者意識調査(損害保険料率算出機構 2015年3月)」によると、大地震が起きた場合の住居被害の可能性について、「ほとんど被害がないと思う」と回答した地震保険未加入者の45.7%が、「耐震性が充分高いこと」を理由に挙げています。しかし、平成28年熊本地震では、耐震基準を満たした建物でも大きく損壊したケースがあります。また、建物が無事でも家財には大きな損害が発生する可能性があります。新しい建物でも油断は禁物です。

【地震発生の可能性に対する意識】
 「地震危険に関する消費者意識調査(損害保険料率算出機構 2015年3月)」によると、「近い将来、あなたが住んでいる地域で大地震が起こると思いますか」という質問に対し、**神奈川県では89.4%の方が「起こると思う」**または「もしかしたら起こると思う」と回答しています。巨大地震は日本全国どこでも発生する可能性があります。2016年は、それまで巨大地震が発生するとはあまり思われていなかった熊本で、震度7以上の大きな揺れに見舞われました。これまで地震が起きなかったからといって、今後も地震が起きない、あるいは起きたとしても大きな地震にはならないという保証はありません。